

ヘルパーについて

| 項目 | | 現状・意見 | 工夫していること・「あったら良いな」と思うこと |
|-----------|---------|---|---|
| 制度 | 当事者 | <ul style="list-style-type: none"> ヘルパーの賃金を上げるなど、国が制度自体を変えていかなければ状況は変わらない。 時間が足りない。 外出の中に通院の時間もある。 USJ など遠くに行ったら時間が足りなくなる。 24 時間、365 日ヘルパーを利用しないと生きていけないが、重度訪問介護の支給量が足りない。月 401 時間の支給決定を受けたが、それでも足りない。 日中は日中活動に行っているが、これでも足りない。 ヘルパーさんには朝 5、6 時に帰ってもらい、次のヘルパーさんに朝 9 時に来てもらっている。寝返りもうてない為、この間はベッドでじっと寝ている状態。暑かったり、寒かったり、自分で布団の調整が出来ず、困る。 重度訪問介護のヘルパーは拘束時間が長い割に単価が安い為、来てくれるところが少ない。持ち出しでしてもらっているところもある。 急にきてもらえない。申請が必要。親がヘルパーってどんなことをしてくれるか知っているかな。お金もいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 支給で足りない分は他人介護料を利用している。重度の方でもこれを使っている人は少ない。 突然何かあった時に連絡できる場所欲しい。 |
| | 指定相談事業所 | <ul style="list-style-type: none"> 細かい利用調整は利用者と直接してもらっていいと考える。 精神障害の複合支援請求について事業所から問い合わせがあるが、ルールブックや Q&A などに対応したらいいのではと思う。 どこまでがフォーマルルールで、どこからが特例の対応かわかりにくい。 通院介護について、ドクターとのコミュニケーションを助けてほしいと利用者から要望があるが、制度上むずかしいと説明することが多い。また、コミュニケーション部分だけを助けてほしいと希望する精神障害の方も多い。 重身だが話せる方で、入院時コミュニケーション支援の対象にならず。有償ボランティアで対応？ キャンセルの対応。 家族がヘルパーに偏見を持っている。いい印象持っていない人もいるためつなげない。 | <ul style="list-style-type: none"> 受診時の中抜きに対して、受診時同席の必要性は計画書に記載必要。 |
| パー量(ヘル不足) | 当事者 | <ul style="list-style-type: none"> ヘルパーの人材不足。感染の時期やヘルパーのケガがあった時に調整困る。 外国人のヘルパーを利用する。(人柄重視) ・一か月前に言わなければいけない等、日にちを選ぶのに制限があり、自由な時間が持ちにくい。 泊まりで来てくれるところが少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> ヘルパー不足の為、どことも大変。将来的には寝返りをロボットに助けてもらおうという方法も出てくるのでは？！ 夜のヘルパーがたくさんいてほしい。 |

| | | | |
|-------|---------|---|---|
| | パヘル | <ul style="list-style-type: none"> ヘルパー不足のため事務処理がなかなか進まない。 サービスの調整が難しい。 | |
| | 指定相談事業所 | <ul style="list-style-type: none"> 受け入れができないと返答があったとき、ほかに紹介する事業所がない場合がある。 モニタリング時の利用者希望支給時間数に対して、支給決定は問題なくても受け入れ先がなく困ることがある。 平日夕方のサービス提供ニーズが多く、事業所の人員が手薄。その時に「ヘルパーあわへん」等言われると大変。 土日祭日は需要が多い、ヘルパー変えてと言われても難しいことも。 事業所の人手不足で選ぶことができない状況。 重身ケース。就寝前から夜間、明け方までのヘルパー確保が大変 長時間のヘルパーの希望は多いが、みつからず短時間になる。 | |
| マッチング | 当事者 | <ul style="list-style-type: none"> 精神障害の人は気分の波があり、サービスの予定も突然キャンセルすることもある。事業所は予定を組んでいて使ってもらえなければお金にならないので、精神障害の利用を拒む事業所もあると聞く。 初めは女性ヘルパーさんだったけど、着替えがあるので男性ヘルパーに変えてもらった。 ヘルパーさんのカラーも色々なので「これだけは譲れない」と自分が思っているところとの兼ね合いが難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ヘルパーさんとのコミュニケーション大事。阿吽の呼吸のなるには時間がかかる。 |
| | 指定相談事業所 | <ul style="list-style-type: none"> ヘルパースタッフとの相性の調整が難しい。 信頼できる事業所に依頼が偏ってしまう。 重度訪問介護を1人の方で6~11社ほど併用する場合もあり調整が大変。 受け入れ依頼のTELを何社も断られると心が折れてしまいそうになる。 トラブルの仲裁に入ることもある。 児童ケースは母視点になってしまう等課題もある。トラブルになることもある。 利用者の要求と事業者からの苦情の間に挟まれる。 GH入居中の方、事業所との調整に時間がかかる。 本人から「このヘルパー嫌だからかえて」と言われる。変えた方がいい場合もあるが、医療的ケアが必要な人はDRも含めてチームを組むため変えにくい。 重度訪問介護200hのケース、1事業所に対応すると言われてたがそれでいいのか迷う。どうプランニングするか。 1事業所で100h以上はハイリスク(事業所が継続できなかった際にサービスが空く) 精神障害の方、相性があるため調整が難しいこともある。 | <ul style="list-style-type: none"> 受け入れ可否がわかるツールがあれば助かる。⇒以前、移動支援ネットワークで受け入れについて情報交換されていた。 東区はヘルパー連絡会がある。ネットワークづくりとして、今後顔を合わせる機会が必要。 事業所と文章でのやり取りではなく、支援会議欠席の事業所ともできるだけ顔を合わせて情報共有をしている。 |

| | | | |
|------|-----------|---|--|
| 質や内容 | 当事者 | <ul style="list-style-type: none"> ヘルパーとの相性、ヘルパーの人柄など大切。相性・人柄は研修や経験で向上は難しい。 直接言えなければ事業所に行って解決してもらおう。言える人はいいが、言えない人はどうするか？ 障害(特に発達障害)についての知識・理解も低い。当事者との関わりから学ぶ、当事者がヘルパーを育てる。ヘルパーだけでなく、事業所も経営重視の所も多いので事業所自体にも理解を促す必要がある。 身体障害は年齢と共に身体状況も変化し重度化していく。対応について、本人も「どうしたらいいのか」困る、ヘルパーと一緒に相談しながら進めていくしかない。抜本的な解決策がない。 苦手なヘルパーさんは？ ⇒何もわかってくれない。 ヘルパーさんとの人間関係をとるのが大変。寝室などに勝手に良かれと思って入られることがあった。 ヘルパーさんによって違う。ありがた迷惑な事もあった。鍋の片付ける位置が違っていたりした。 | <ul style="list-style-type: none"> 黙って我慢せずに自分の気持ちやして欲しい事をきちんと伝える事が大切。 当事者と事業所との交流もあつたらいいのではないか。 ここに行きたいと自分で言う。 食事は美味しい。自分で昼が和食なら夜は洋食などバランスをとっている。 「ここまでして」と常に言葉で伝えるように意識する。 |
| | ヘルパー | <ul style="list-style-type: none"> ヘルパーの定着について ガイドの外出先について 業務上で分からない事が多い。色々な人に聞いている。 プライベートについて、どこまで踏み込んで良いか気を遣う。なるべく行動ごとに声かけをするようにしている。 | |
| | 指定相談事業所 | <ul style="list-style-type: none"> 居宅介護のヘルパースタッフが移動支援も行ってほしい、関係性構築が難しい方も多いが人員上対応できないこともある。 喀痰吸引の対応は講習受講も必要で採算性の面からか対応できる事業所も少ない。 ヘルパーの質のばらつき。紹介する立場としては向上してほしい。 ヘルパーが LINE している。 ヘルパーさんと本人の関係が密着し、ヘルパーサービスを超えて動く。サービス時間以外に本人に会いに行くなど。 ヘルパーさんと本人との間で決まり事ができていたことも。線引きは大事だと思うが。 やりすぎてしまう支援。 発語のない利用者の方はヘルパーさんの意向が強くなる場合も。 | <ul style="list-style-type: none"> ヘルパーさんに直接いうのではなく、管理者を通して伝える。 |
| その他 | 当事者 | <ul style="list-style-type: none"> ヘルパー制度ができる前は親とでかけていた。 お金のことを見られたり、寝室や下着など見られたりして恥ずかしい。入浴時恥ずかしい。 部屋の掃除はしてもらわない。散らかっている方が落ち着くから。 ホームヘルパーは使っていない。親の意向もあって、家には入ってもらっていない。 | <ul style="list-style-type: none"> (困った時は誰に相談してる?)ヘルパーの一番偉い人に相談している。 |
| | 業所 指定相談事業 | <ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応はヘルパーではなく相談員や他事業のスタッフで対応している現状。 サービス提供前に整理が必要なケース(ゴミ、ペット、家族の同意)がある。 身体介助について、ヘルパーの身体も心配。 | |

ヘルパーに関して現在実施していることなど

| 実施者 | 実施内容 |
|--------|--|
| 障害者支援課 | 年に1度居宅介護事業者現任者研修(サービス提供責任者向け研修)を実施している。 今年度は堺市立健康福祉プラザ生活リハビリテーションセンターから講師をお招きして、高次脳機能障害の基礎的知識を深め、支援の方法を学ぶ研修を行う。 全2回のシリーズ研修として、2月20日、3月15日実施予定。 |
| 西区協議会 | 年に2回ヘルパー交流会を実施している。事業所の世話役と基幹Cが中心となって企画運営をしている。 今年度7月には精神障害の方への支援について事例報告とグループワーク、1月はケアマネや相談支援専門員も入って交流会を実施。今後は現場のヘルパーから提案があがっているアルコール依存症の勉強会を検討予定。 |
| 南区協議会 | H27年度に精神障害のある方の支援について研修を実施。協議会構成員だけではなく、居宅介護事業所や訪問看護事業所に呼びかけた。保健センターの相談員に講義をしてもらい、好評であったことからH29年3月に同様の内容で実施予定。 |